チューリッヒ工科大学に留学して†

保田 尚俊*

Study abroad in ETH Zurich

by

Naotoshi YASUDA*

2016年4月から半年間、アカデミックゲストとしてスイスのチューリッヒ工科大学 (ETH Zurich) に滞在しておりました。本稿では、そこで私が感じたことを述べさせていただきますと思います。

大学の研究室を訪問し、まず初めに驚いたことは、デスクトップPCだけでなく、付箋やホッチキス、シャープペンシルや消しゴムにいたるまで、研究を行う際に必要となる可能性のあるものすべてが用意されていたことです。海外でそのような、日本以上の細やかな気遣いをして頂けるとは想像しておりませんでしたので、非常に驚いたことを覚えております。また、研究を行う際に必要となるソフトウェアのセットアップが簡単にできた点に関しても、驚きました。チューリッヒ工科大学では、ソフトの使用に際して煩雑な手続きが無く、初日に学内で登録した自分のアカウント（この登録も5分ぐらいでできました）のみで、研究に必要なすべてのソフトを使用することができました。日本では、ソフトウェアのライセンス認証の手続きや管理でいつも苦勞しておりましたので、あまりの簡単さに感動いたしました。

研究室は国際色豊かで、出身国も母国語も様々でしたが、ドイツ語、英語、イタリア語等の言語を使い分けながら、議論が活発に行われておりました。お世話になった研究室では、学生間の仲が良く、皆親切で、学内外の様々な活動と一緒に参加させてもらうことができました。研究室内の学生の生活は、日本に比べてメリハリがあるという印象でした。研究室内は大学や外部機関から給料をもらいPh.D. studentとして研究をしている学生が多かったのですが、彼らは契約で決められた時間はしっかり研究し、それ以外の時間はスポーツ等の研究以外の活動をするといった感じでした。日本のPh.D. studentは学校に住み着くぐらいに研究するというイメージが強いですが、スイスではライフワークバランスが重要視されておりました。

研究の環境面に関しては、初めての留学でいろいろと心配をしておりましたが、うれしいことに、すべて杞憂に終わりました。むしろ、日本に比べ、ソフトウェアのセットアップ等の煩雑な作業に時間を割く必要がないため、個人的には、研究の環境は優れているのではないかと感じました。

次に生活面に移りたいと思います。スイス滞在で一番苦勞したことは保険です。スイスでは、長期滞在する場合、保険の加入が義務付けられております。スイスでは日本のような国民皆保険制度はございませんので、自分で保険会社の保険を選び、加入しなければなりません。私はあらかじめ日本で海外留学用の保険に加入していったのですが、必死の抵抗にも関わらず、結局その保険では補償が不十分（けがの補償は無制限でなければならない）との理由で、現地の保険にも加入しなければなりませんでした。役所などの公的な機関を訪問すると英語が通じるのであまり問題は生じないのですが、手紙で送られてくる公的な書類はすべてチューリッヒ市の公用語であるドイツ語で書かれております。そのため、保険の手続きに関しては非常に苦勞いたしました。なお、スイスに留学される際は日本で保険に加入していくのではなく、現地（留学生向けの安い保険がございました）に到着後に加入して頂くことをお勧めいたします。

スイスの公用語はドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語の4つであり、英語は公用語ではありません。しかしながら、基本的には街中どこでも英語が通じます。そのため、片言の英語しか話せず、ドイツ語やフランス語等は全くわからない私でも、日常生活に支障をきたすような苦勞をすることはほとんど有りませんでした。また、チューリッヒ市内はトラム（路面電車のようなもの）やバス等の公共交通網が発達しており、人口密度が高くなく、自然も豊かなため、日本にいるよりも快適に生活ができました。ただし、スイスの物価は日本に比べて、2倍程度と非常に高いので、お金に関しては苦勞することがあるかもしれません。

海外留学ということに対して、留学前は様々な心配をしておりましたが、実際はほとんど問題なく、楽しく過ごすことができました。さらに、日本では得ることのできない多くのものを得ることができました。若い学生の皆様には是非とも海外留学をして頂き、日本では得られない多くのことを学んで頂ければと思います。スイスは英語圏ではないため、日本から留学される方は少ないと思いますが、日本人にとっては生活しやすく、また国際色も豊かな国です。物価が高いことが難点ですが、個人的には非常に留学をお勧めできる国です。

† 原稿受理 平成 28 年 9 月 28 日 Received Sep. 28, 2016 ©2017 The Society of Materials Science, Japan

* 正 会 員 京都大学工学研究科 〒 615-8540 京都市西京区京大桂 Graduate School of Eng. Kyoto Univ., Nishikyo-ku Kyoto, 615-8540